

10年後のまちはどうする

一関二高 誘致見据え在り方考察 1年生



県立一関二高(中崎ゆかり校長、生徒644人)のILC関連セミナー「地域の未来を考える」は30日、一関市赤荻の同校で開かれた。次世代の大型加速器「国際リニアコライダー」(ILC)の誘致実現を見据えたまちづくりについて生徒が意見を出し合った。



ILC実現を見据え地域の将来像を話し合う一関二高1年生

Cに関わる幅広い分野で活躍できる人材の育成につなげようと、同校と市が企画。2018年度全3回のセミナーを通じて、1年生200人がク

ループごとに地域の将来像を考える。

初回は県政策地域部国際室主事の和山アマンダさんの講話を通じて、ILCの仕組みや役割に理解を深めたほか、建設が実現することさまざまな

な経済効果が生まれることを学習。その後、生徒はクラスごとグループに分かれて、テーマ「みんなで考えよう『将来のまちづくり』10年後の一関で私たちは何をやる」について話し合った。

ILCの建設が実現した場合、研究者やその家族らが世界中から集まることから、生徒は「地域に活気が生まれる」「ILCに関連する」会社もできる」など見込む

方、「外国人が暮らしやすいようにサポートが必要」「英語でのコミュニケーション能力を高める必要がある」などの意見も上がった。

阿部楓菜さんは「海外から訪れる人たちが住みやすいまちにするため、さまざまな設備や仕組みが必要になると思う」と語った。

今回の協議を踏まえ、第2回(11月13日)でグループ討議の内容を模造紙にまとめ、最終回(12月4日)で集約した内容を発表し合う。